



2012年2月15日(火) 京都新聞

京都、滋賀、奈良の大学生協で構成する大学生協京都事業連合（京都市左京区）が14日、3府県の学生の生活実態についてのアンケート結果を発表した。収入に占める仕送りの比率が、バブルが崩壊した1991年以来最低になり、家賃を除いた生活費は約30年前と同水準になるなど、厳しい生活の現状が浮き彫りになった。

「第46回学生生活実態調査」として全国大学生協連合が昨年10～11月に実施し、3府県では京大、滋賀大など16大学4009人を対象に行った。

京都事業連合の調査では、1カ月の平均収入額は、自宅生が6万830円と昨年を10円下回

仕送り比率 91年来最低

った。一方、下宿生は12万5960円で、91年以来最低だった昨年を770円上回った。しかし、仕送り（7万3990円）が収入に占める割合は58・7％にとどまり、奨学金とアルバイト代の比率が高まっている。下宿生の支出は、住居費の比

京滋奈の大学生協アンケート

率が45・7％と91年以来最高で、食費（20・5％）を大きく上回った。家賃を除いた額は6万5540円と、資料でさかのぼれる1982年（6万9580円）を下回り、同連合は「厳しい経済環境の中、食費にしろ寄せが来ているのが明らか」と

生活費、30年前と同水準

している。

また「就職に不安を感じている」との回答が75・7％と全国平均を2・4ポイント上回った。「就職のためにしたこと」は、東京の学生が会社説明会や就職ガイダンスへの参加率が高い一方、3府県ではインターンシップ（就業体験）やボランティアに積極的に取り組んでいる傾向が明らかになった。

下宿生で就職活動中の立命館大3年、 さん（21）は「会社説明会への交通費を節約しようと、割引のあるプリペイドカードを使っているが支出は痛い。就職できるかという不安も大きい」と話している。

（江藤均）

USAGI通信はメールでの送信も可能です！！

弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい。